水難救助 スピードアップへ

離岸流 AIが検知

県内初導入 監視員に自動通知

高浜・和田ビーチ

海開きを前に高浜町和田の若狭和田ビーチは1日、水難事故の未然防止と、迅速な救助につなげる「海辺のみまもりシステム」を県内で初めて導入し運用を始めた。事故の原因となりやすい「離岸流」や沖へ向かう風の発生を人工知能（AI）が検知し、そのエリアに人がいた場合はライフセーバーや監視員に自動で救助を要請する。（川上桂）

システムは日本ライフセービング協会（東京）が日本財団（同）の助成を受けて開発した。導入は国内で3カ所目。同ビーチは、県内トップクラスの入り込み客数を誇り、優れたビーチに与えられる国際環境認証「ブルーフラッグ」を6年連続で取得している。同協会の推奨ビーチであることから、昨年町に設置の打診があった。

監視カメラ4台を電柱2カ所に2台ずつと、風速計を設置。これまでに海面状況データを集め、離岸流を調査してきた。カメラの映像と風速計の情報をAIが分析し、離岸流と沖向きの風の発生を見つけた場合、救護所や専用アプリをダウンロードしたライフセーバーと監視員のスマートウオッチ、スマートフォン（スマホ）に通知される。さらに離岸流や風の発生エリアに人が入った場合は救助を要請する。

1日には同ビーチの和田救護所前で贈呈式があり、同協会の石川仁憲常務理事らが、若狭和田ライフセービングクラブの細田直彦会長(38)、町水難救助員会の磯部功会長(72)、野瀬豊町長にスマホやウオッチ、目録を手渡した。

システムは同クラブと同救助員会が運用。細田会長によると、救助が必要な人を見つけて救護所に知らせるまでの時間が省略され、シミュレーションでは救助までの時間が半分になったという。「救助のスピードが上がりありがたい。アプリは誰でも利用でき、海を見守る目が増えることも期待したい」と話していた。

アプリ名は「Water Safety」。離岸流や沖向きの風の発生情報を受け取ることができる。

離岸流の発生を監視する2台のカメラ＝1日、高浜町和田の若狭和田ビーチ

アプリから「強い沖向きの風が発生しています」と通知が届いたスマホ